

再生！野幌の森林

NPO法人シーズネット 豊友会代表 長尾 隆
石狩地域森林環境保全ふれあいセンター 佐藤 充

1. はじめに

野幌森林公園は札幌市の東隣の、札幌市・江別市・北広島市周辺に広がる都市近郊林で、面積は約2,000ha、国有林が8割の1,600haを占めています。

平成16年9月北海道に接近した台風18号は、各地に被害をあたえ、野幌の森林も強風による風倒の被害を受けました。

被害面積は公園全体で77ha、国有林の被害面積は、人工林48ha天然林23haの被害を受けました。

野幌の被害状況



■ 被害箇所

2. 森林再生への手順

野幌の今後の森林再生の方向性を検討するため「野幌森林再生検討会」を設置し、風に強い森林づくり、森林の再生状況を把握するモニタリング調査、風倒箇所を保存し調査研究を大学機関と連携する取組み、そして100年前の原始性を感じられる自然林に再生するため、多くの市民参加の森林づくりも検討されました。

3. 市民参加の森林づくり

市民参加の森林づくりの参加形態		
タイプ	参加ニーズ	特徴
団体型森林づくり (団体参加の受け皿)	NPO、学校、企業等での参加	・協定締結 ・計画的、継続的な実行 ・苗木等の経費は自己負担
みんなで森林づくりフィールド (団体～個人参加の受け皿)	団体、学校、家族、個人等での参加	・苗木、道具類等は国有林で準備 ・多様な参加者層、多数の参加者の受入が可能
野幌森林づくり塾 (個人参加の受け皿)	家族、個人での参加 森林の植生、森林づくり等についての学習	・森林づくり等に関する体験、学習等 ・将来、森林ボランティア活動への参加も期待

市民参加の森林づくりは、団体でも、家族や個人でも参加したいという市民のニーズに応えるため、3つ参加方法を用意しました。

- ① 「団体型森林づくり」です。これは、NPO、企業などの団体を対象に現地を所管する石狩森林管理署と各団体が森林づくりの協定を締結し、その団体が植栽などについて一定の期間取組むものです。
- ② 「みんなで森林づくり」です。わかりやすく言えば「植樹祭」のように行うものです。
- ③ 「野幌森林づくり塾」は「森林教室」のように行うものです。

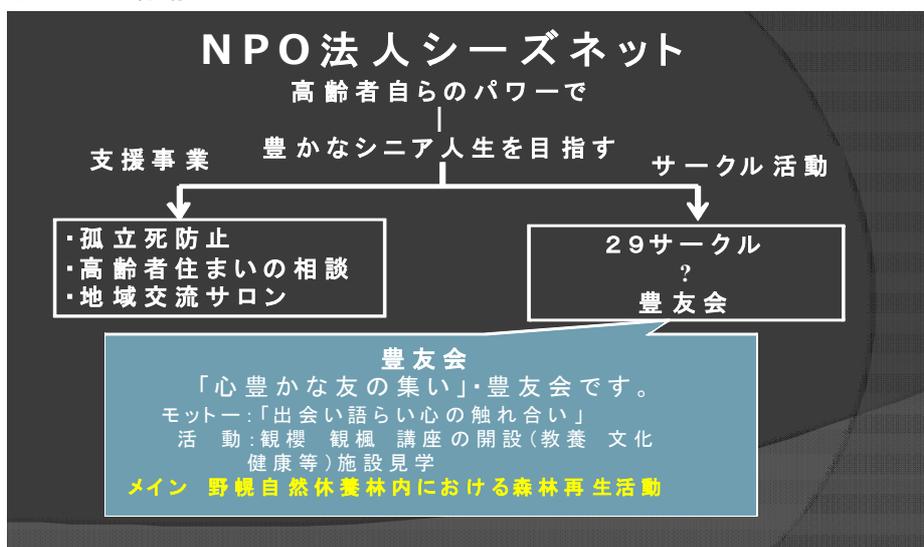
4. 「団体型森林づくり」

	団 体 名	当初の活動状況	
		平成17年度	平成18年度
1	NPO法人 森林遊びサポートセンター	植栽	補植、下刈
2	NPO法人 北海道森林ボランティア協会	地拵、植栽	植栽、下刈
3	NPO法人 シーズネット	現地調査	植栽
4	NPO法人 EnVision環境保全事務所	現地調査	植栽、下刈
5	北の森21運動の会	植栽	植栽、下刈
6	札幌もいわライオンズクラブ	植栽	生育調査
7	野幌森クラブ	播種	植栽、下刈
8	レディースネットワーク21	現地調査	植栽、下刈
9	酪農学園大学	現地調査	生育調査、植栽
10	(社)北海道トラック協会	植栽	植栽、下刈
11	北海道ガス株式会社	植栽	植栽
12	(有)樹木コンサルタント	植栽	植栽、下刈

NPO、大学、企業など12団体が参加し「団体型森林づくり」は活動を開始しました。現在活動している団体は11団体で、これまでに植栽や下刈を中心に活動しています。

この11団体で実際に野幌で汗を流し森林再生に御尽力されている、NPO法人シーズネット豊友会代表、長尾さんに活動状況を紹介していただきます。

5. シーズネットの活動



NPO法人シーズネットは少子高齢化社会にあって高齢者自らのパワーで豊かなシニア人生を目指し、いろいろな事業や活動を行っています。

サークル活動も活発に行われており、現在 29 のサークルがあり、その一つが豊友会です。

豊友会は、「出会い語らい心の触れ合い」をモットーに、「観桜、観楓、講座の開設（教養・文化・健康等）、施設見学」などを企画実施しています。そのメインの一つが野幌の森林再生活動です。

森林再生の取組みのキッカケは、18号台風の翌年、平成17年5月に開催された一般公募の「みんなで森林づくりフィールド」～よみがえれ野幌の森～への参加でした。

みんな、初めての植栽体験で、あいにくの小雨模様の中、泥まみれになって奮闘しました。皆さん相当懲りたかと思いきや、街中では得られない大自然に向き合う新鮮な感覚の喜びや、後世のための社会貢献なのだという充足感を意味する発言をたくさん耳にすることができ、このような参加者の声が後押しにもなって、団体型森林づくりへ参加することになりました。

平成17年に野幌森林再生団体型森林づくりの協定（5年間）を締結し、平成22年度には、継続の協定（3年間）を結び現在にいたっております。

6. 活動の軌跡

平成18年5月、シーズネットの森林づくりが始まりました。植栽地は森林公園の散策路沿いの0.2haで、地拵をした植栽地にスコップを手にも慣れな手つき、腰つきながら頑張って植付作業を行いました。



石狩地域森林環境保全ふれあいセンターから指導を受け、トドマツ 100 本・ミズナラ 40 本・ハルニレ 30 本・エゾヤマザクラ 30 本、合計 200 本を植えました。

苗木を植えてみたものの、ネズミやウサギに食べられたり、雪により苗木の幹や枝が折れたものもあり自然の厳しさを知りました。苗木の補植が必要となりました。

30 本の苗木を補植することにし、樹種はエゾヤマザクラで、北海道櫻千本運動で新聞社より提供を受けたものです。将来散策路を行き交う人々が満開の古木を愛でる様子を思い浮かべながら植えました。

せっかく大切に植えたエゾヤマザクラでしたが、1 年後数本が枯れてしまいました。それは水はけの悪い湿地に植えられた苗木たちでした。これではいけないと考え、湿地に強いヤチダモを植える事にしました。素人ながら少しずつ知恵がついてきたと思います。

続いて、第二次の補植を行いました。苗木は野幌で活動している団体型森林づくりのメンバーで、野幌森クラブ様が野幌で生育している木の種子から苗木を育て、野幌の森林再生に生かそうとしているものです。同じ野幌で森林再生のために活動されているのであればということでハルニレ・ミズナラ・キタコブシ・オニグルミ・ヤチダモの 5 種類、各 6 本、合計 30 本を提供して頂き、苗木を私たちの植林地に補植することができました。野幌森クラブ様に感謝いたします。

また、一人ひとりが心をこめて植えた苗木たちには、それぞれの名前と思いを記した記念の立て札を添えました。

「結婚 51 年記念」、「古希を記念して」、「喜寿記念」、「孫誕生記念」、「祈 復興東日本大震災」、「友達に感謝」等々です。

植栽後の保育は毎年、苗木の成長を助ける下草刈りをしています。大鎌をはじめて手にする私たちズブの素人集団です。最初は鎌の握り方、使い方や安全確保の注意事項等について細かな指導を受け、真剣に作業に取り組みました。

一方、現地での森林の手入れ以外に、森への関心が高まり森林講座をひらきました。

第 1 回森林講座「森林再生と苗木づくり」森林技術再生研究所の水正貞教先生から森林再生についての貴重なお話と苗木づくりの実習を受けました。

第 2 回森林教室「北海道の森林・野幌の森林」では、北大大学院地球環境科学研究院准教授春木雅寛先生が北海道と野幌の森林のこと、森林の中の笹のこと、ミミズの役割など専門的なことを、私たちにも分かるようにやさしくお話し下さいました。

第 3 回森林講座「カミネッコンで森をつくろう」で、第 1 回目と同じ水正先生の講座でカミネッコンを組み立て、アカエゾマツ・ハルニレ・ミズナラ・ヤチダモ、計 60 本の苗木を植え込み 1 週間後に定山溪の国有林の一画に置き植えました。

フィールドの植林活動と机上の森林学習の相乗効果で、森林への関心と理解を深め、その素晴らしさと大切さをより深く認識できたのではないかと思います。

僅か 0.2ha の植林地ですが、数十年後大樹に成長し蘇った森の姿を想像するとき、仲間と共に汗した私たちにとって、この森はとても大きな夢と希望の森であります。

この植林地は、「41 ほ₃₄林小班」という記号がついていますが、私たちはこれを勝手に「シーズネット」の森と呼んでいます。

こうして愛する森に親しみ、楽しみと喜びにひたることができましたのも、石狩地域森林環境保全ふれあいセンターのご指導ご援助の賜と、心からお礼申し上げる次第です。有り難うございました。



下刈りを終えた皆さん

8. 終わりに

石狩地域森林環境保全ふれあいセンターは、市民参加型の森林づくりへ参加した皆さんが、この活動を通じて野幌の森林と都市生活者の新しい接点となり、森林と人とのかかわり・野幌の森林づくりの体験と知識の習得を契機に森林の魅力の発見や、野幌の森林の新たなファンや良き理解者を抜げていくことが重要だと思います。

来年度、新たな協定による活動に対し、市民参加の森林づくりをより有意義なものにしていくとともに、「国民の森林」として国有林の存在感を一層高めていくことに寄与できるよう、努めていきたいと考えています。